

名取川頭首工

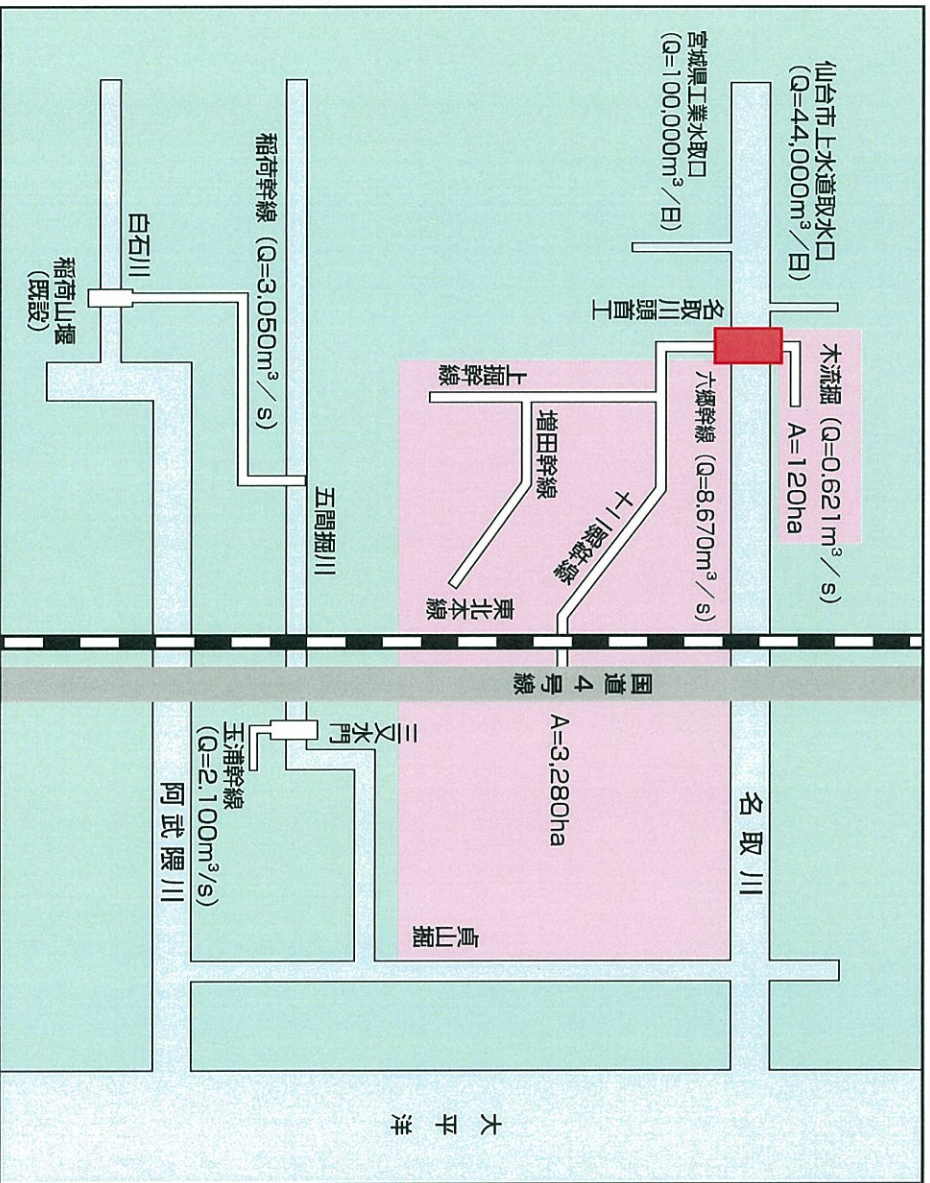


名取川頭首工の概要

水田のかんがい用水を目的として藩制時代に造られた六郷堰は、昭和23年のアイオン台風により被災したため、県営事業により約300 m上流に玉石造り固定堰として、昭和23年から3カ年の工期で築造され、3,400 ha余りの水田をうるおしてきた。

その後、時代の変遷に伴ない、宮城県仙台圏工業用水、仙台市上水道用水との共同利用が計られてきたが、戦後の物資不足時代に築造されたものであるために維持補修を重ねてきたにも拘わらず、特に最近、老朽化が急速に進んだことから、東北農政局、宮城県、仙台市の共同事業により新たに六郷堰の下流100 m、名取川河口より12.2 kmの地点に名取川農業水利事業の一環として東北農政局が築造したものである。

頭首工の位置



宮城県企業局（工業用水道）



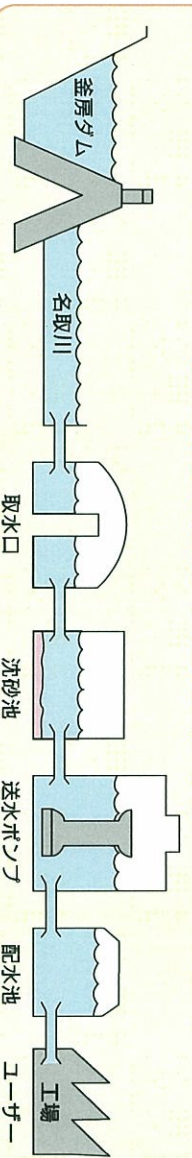
熊野堂取水場

工業用水道は、産業活動のための水の確保、地盤沈下等の地下水障害の防止等を目的に整備されたものであり、経済の発展に大いに貢献しています。

県では、仙塩、仙台圏、仙台北部工業用水道の三大事業を実施しております。

名取川からは、仙台圏工業用水道の取水を行っています。釜房ダムを水源として、名取川頭首工の上流で取水し、仙台市、名取市、多賀城市、七ヶ浜町、利府町に立地する15の企業（平成17年3月1日現在）に対し、安くて安定した水を供給しております。

仙台圏工業用水道のしくみ



仙台市水道局

仙台市の水道は、大正12年3月、給水を開始し、その後、市勢の伸展、給水区域の拡大、市民生活の向上に伴う水需要の増加に対応するために数次にわたる拡張事業・配水管整備事業等を行い、平成15年度において、給水人口100万人、99%を越える高い水道普及率となっています。

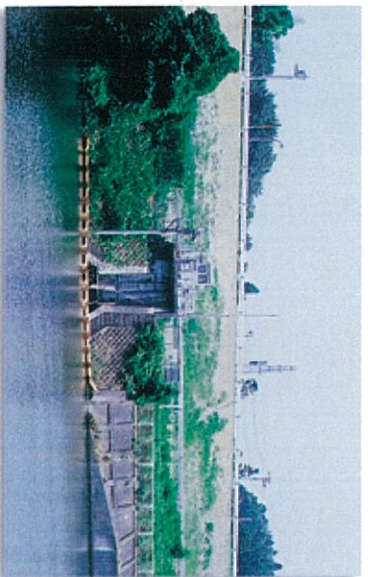
仙台市水道の水源のひとつである名取川では、名取川頭首工でせき止めた河川水を、頭首工上流左岸にある取水施設で取水し、富田浄水場に導水しています。



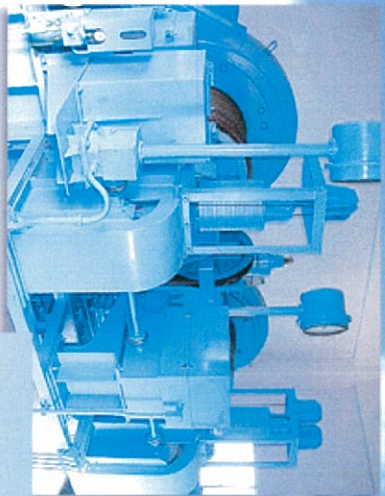
富田浄水場全景

この浄水場は、昭和23年から昭和30年にかけて第2次拡張事業により建設した緩速ろ過方式の浄水場でした。その後、施設の老朽化や水需要に対応するため、昭和55年に薬品沈でん・急速ろ過方式に改良し、現在は名取川表流水及び釜房ダム放流水を水源とする施設能力47,900m3/日の浄水場となっています。

ここで浄水された水は、大年寺山配水所に送水され、JR仙台駅、東北大学（片平）、仙台市福祉プラザ等が立地する都心南側のエリアに配水されています。



取水施設（取水門）



善上機



頭首工本体



取水口



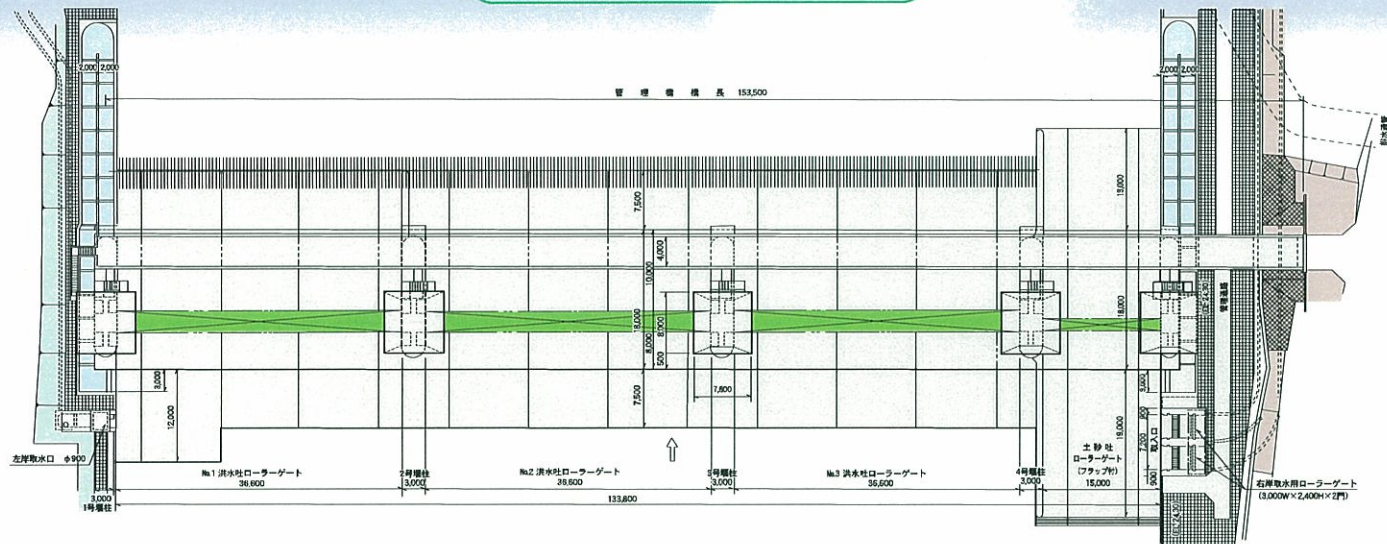
遠方操作盤



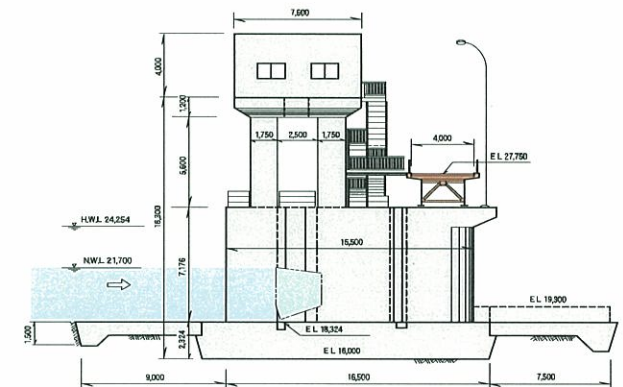
管理事務所



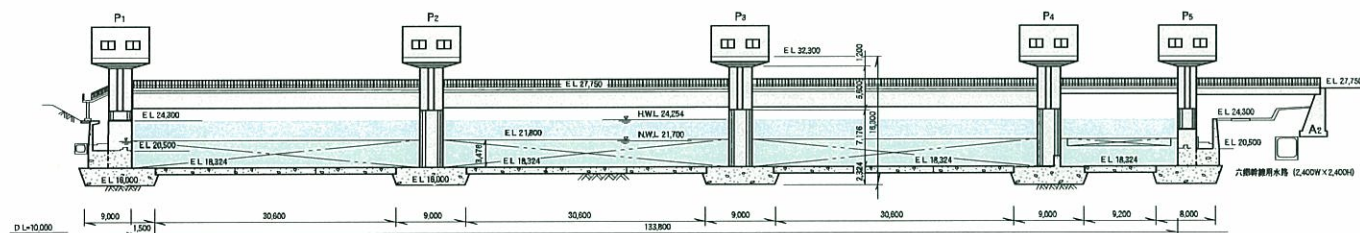
平面図



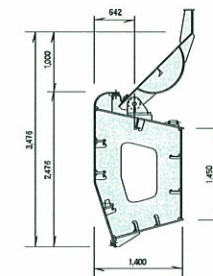
断面図



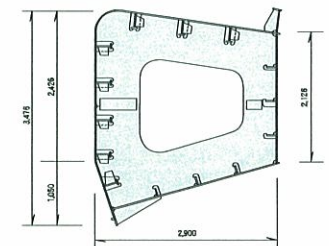
正面図



土砂吐ゲート



洪水吐ゲート



施 設 諸 元

河 川 名	1級河川名取川水系名取川
位 置	河口 (関上港) より12.2kmの地点
型 式	フイツクスドタイプ全可動式
堰 長	133.8m
堰 高	3.476m
堰 頂 標 高	EL21.800m
計画高水位	WL24.254m
計画高水量	3,200m³/s
可動堰型式	銅製ローラーゲート 36.6×3.476 3門 // 15.0×3.476 1門
取 水 量	農業用 8,840m³/日 上水道 44,000³/日 工業用水 100,000m³/日
魚 道	階段式魚梯型 2.0m×70m l=1/20 左右2ヶ所
取 水 施 設	農水：右岸 銅製ローラーゲート 3.0×2.4m 2門 左岸 銅製スライドゲート φ900 1門
管 理 橋	橋長 153.5m 幅員 4.0m 最大スパン 38.9m 合成桁 2等橋
管 理 施 設	管理事務所 鉄筋コンクリート2階建 313m² ゲート格納庫 鉄骨造 268m²
工 期 ・ 工 費	昭和57年度～昭和59年度 3ヶ年 22億円
費用負担割合	東北農政局 75.2% 宮城県企業局 17.8% 仙台市水道局 7.0%



名取土地改良区

〒981-1226
宮城県名取市上楢松字錦田84-1
TEL 022-382-5211 (代)
FAX 022-384-3759

名取川頭首工管理事務所

〒981-1241
名取市高舘熊野堂字五反田51-3
TEL 022-386-2246 (代)
FAX 022-386-2472